



Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第 12 回アンチキルケばか詰作品展(再掲)
- ・ 第 127 回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第 128 回 WFP 作品展
- ・ Fairy of the Forest #65
- ・ 推理将棋第 135 回出題
- ・ 臨時③神無太郎の氾濫 問題編

結果発表

- ・ ちょっと早い 2021 年年賀詰作品展
- ・ 推理将棋第 134 回解答
- ・ 第9回神無太郎の氾濫 解答編

読み物

- ・ レトロプロブレム入門(13)by 高坂研



2021 / 1

はじめに



2021 年

新年明けましておめでとうございます。とは言ってももう 20 日ばかり過ぎちゃってますが。とにかく WFP 共々今年もよろしくお祈りします。

なんでいきなり「たんこぶ」のイラスト？って感じですが…。

今年は元旦が金曜日でしたので、バドミントンのクラブの練習日として小学校の体育館をとりあえず予約しておりました。すると今年はメンバーが帰省しない人が多く、暇みたく「練習しないんですか？」の問い合わせが多々あり。

鍵は私が持っているので、それではやりましょうかとなりまして、元旦に練習に行きました。その練習中に、シャトルを取りに行った勢いで何故か足に力が入らなくなり、やたよたと壁に向かって突進して凄惨な音を立てて激突。血が出たり脳震盪起こしたりという事態にはならなかったんですが、おでこを触るとめっちゃめっちゃ膨らんでいる。誰かが「漫画みたいなたんこぶ！」と叫ぶほどでした。48 時間以内に吐き気やめまいがしたらやばいとありますが、そういうこともなく何とか大丈夫でした。とはいってもまだおでこが少し膨れていますので一寸恥ずかしい感じですが。今年が思いやられますね。

新型コロナも終息が見えず局所的に緊急事態宣言も初出されました。早く普通の生活が送れるようになりたいものです。

たくぼん

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも 4 コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト 10、自己紹介、何でも OK です。

感想

第 151 号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々の HP アドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<https://senkyotei.hatenablog.com>

ご存じない方もいると思いますので、アンチキルケばか詰作品展の歴史を少しお話します。アンチキルケルールは2005年2月に若林さんによって提唱されました。チェスプロブレムよりの導入ですが細かいルールは異なる部分もあります。(チェス版では、初期位置に駒がある場合は、駒取りができない)その後ネット上を中心に盛り上がり、Takubonのページ上で第1回アンチキルケばか詰作品展は、2005年10月1日に、簡素系5手詰という条件で開催致しました。メンバーは、吉川慎耶、神無太郎、もず、縫田光司、荻江香木、若林、ぷら、小峰耕希、北村太路、神無七朗、冬眠蛙、たくぼんの12名。今思えばなかなかのメンバーでしたね。第1回の最多お気に入り投票を獲得したのが北村太路さんでした。手順は省略しますが、好手順連発ですので解いてみてください。

北村太路作 アンチキルケばか詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					金	銀	桂	香	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
				玉	王				九

持駒 角

その後は、第4回より中、長編、アンデパンダン枠を設けるなどして、第10回(2006年7月)まで定期開催を行いました。1ヶ月に1度開催ですからどれほど盛り上がっていたかは想像出来ますね。

WFP0号(2008年6月)で久しぶりに第11回アンチキルケばか詰作品展を開催し、その結果を掲載したのが記念すべきWFP1号(2008年7月)となるわけです。WFPとの縁というかすれ違いというか…。

というわけでWFP150号を記念して12年半

ぶりに復活「第12回アンチキルケばか詰作品展」を開催いたします。

エントリーは7名。神無太郎さん(1)、上谷直希さん(2)、神無七郎さん(3)、変寝夢さん(1)、真Tさん(3)、青木裕一さん(1)、馬屋原剛さん(2)、たくぼん(1)。計14作となりました。錚々たるメンバーの競演となりました。お楽しみ頂けると確信しております。(注:私は解を見ておりません。今から解図しますので内容については分かりません)

【ルール説明】

ばか詰

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

アンチキルケ

駒取りがあったとき取った方の駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される。

[補足]

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 成駒は成ったまま戻る。
- 2) 戻り位置に駒があったり、自玉に王手が掛かっていたりするため、戻れない場合は戻らない。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4) 金銀桂香(成駒も含む)が5筋で駒取りを行い、複数の戻り先候補がある場合、戻る位置を選択できる。片方にのみ戻れる場合は強制的にそちらに戻る。

解答要項

解答締切:2021年2月15日(月)

解答送り先:

たくぼん(takuji@dokidoki.ne.jp)

※長手数の作品は、略記OK

※fm等を使用しての解答も可。但しその旨お知らせください。

※お気に入り投票を実施します。お気に入りの作品の番号を記入ください(最大3作とします)順位付は不要。

【呈賞】お気に入り最多得票作と、解答者1名に愛媛県特産品をお送りします。

1番 上谷直希作

アンチキルケばか詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							馬		四
									五
				龍					六
									七
	ス								八
		王	歩						九

持駒 なし

2番 真T作

アンチキルケばか詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								皇	二
						ス		王	三
								歩	四
							飛		五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛角

3番 真T作

アンチキルケばか詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
								王	四
								角	五
									六
									七
		馬							八
		香		王	王				九
		龍					飛		九

持駒 香

4番 馬屋原剛作

アンチキルケばか詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
							王		五
						角	王		六
									七
							香		八
									九

持駒 なし

5番 上谷直希作

アンチキルケばか詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
							王	ス	五
								王	六
							歩	歩	七
									八
									九

持駒 飛角

6番 変寝夢作

アンチキルケばか詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
								歩	二
								龍	三
								王	四
								角	五
									六
									七
									八
									九

持駒 金香4

7番 神無太郎作

アンチキルケ協力詰 209手

										一
										二
										三
										四
										五
歩	歩	歩	歩	桂	歩	歩	桂			六
歩		と		と					歩	七
と	と	と	と	と		王		全		八
										九

持駒 なし

14番 馬屋原剛作

アンチキルケばか詰 355手

										一
皇	皇	皇	ス	ス	ス	歩	銀			二
角		歩	桂	桂	桂	銀	歩	ス		三
玉				と					飛	四
			王						歩	五
	桂	歩		歩		飛	ス	杏		六
									歩	七
			歩	歩		歩	ス			八
		銀	香		角	王	ス			九

持駒 なし

解答状況 (2021年1月20日現在)

0

解けたものだけでも、fm 使用しての解答も可。
感想をたくさんお寄せください。

第127回WFP作品展(再掲)及び 第128回WFP作品展

担当：神無七郎

📅 コロナ禍の新年スタート

あけましておめでとうございます。

新型コロナが全国で猛威をふるっており、詰将棋界にも影響が出ています。会合や詰将棋解答選手権が中止になり、残念な思いをしている方もいらっしゃるでしょう。

筆者の住む高槻市も昨年11月から急速に感染が拡大しました。感染者数が市単独で和歌山県全体を上回り、1月末に予定されていた「王将戦」の大盤解説会も中止になりました。



このような状況なので、いつもは干支にちなんで創作する普通詰将棋の年賀詰も、今回はコロナにちなんだミニ煙詰に変更しました。コロナが煙のように消えてくれれば良いのですが、現状では先が見通せません。ワクチンも効果、安全性、接種可能時期に不確定要素があります。当面は長期戦を覚悟すべきでしょう。

筆者も担当業務に支障が出ないように、個人でできる基本的な感染対策を着実に実行したいと思います。

感染症が流行していても比較的安全なのが、散歩です。冬は野鳥も多くなり、見ていて飽きません。そんなある日、川沿いを歩いていると、面白い光景に出くわしました。ヌートリアの子供が川辺の草を根元から引き抜いていたのです。



そして、それを川に持って行き、水で土を落として食べていました。



食べ物を水で洗う動物といえばアライグマが有名ですが、ヌートリアも水洗いをするとは知りませんでした。冬は地上にある硬い葉を食べるより、柔らかくて栄養のある根を食べる方が良いでしょう。これがヌートリア全般の本能的行動なのか、この個体あるいは家系にのみ伝わる文化なのか、もう少し観察してみたいと思います。

以下は新年度にあたっての連絡事項です。

WFP 作品展に関しては、今年も去年と大きな違いはありません。

一回の出題数の目安は12題。それを越える投稿があった場合は、登場回数の少ない作者の作品を優先します。ただし、一回に登場する作者の偏りが大きくなり過ぎないように、出題時期を適宜調整することがあります。

また、ツインや複数解の作品は、原則として複数題として計上します。作者は全体で一題として作っているわけですが、解答者にとっては複数題の問題を解くのと変わらないので、このように扱っています。ただし解図が極めて容易であれば、一題分として扱うこともあります。難易度は人によって違うので、筆者の主観的判断になりますが、ご了承願います。

また第128回からの解答の集計方法ですが、作者と投稿者が異なる場合（現在は上田吉一氏の作品を変寝夢氏経由で投稿していただいています）、投稿者からの解答も作者からの解答と同様、無条件で正解扱いしたいと思います。フェアリーではあまり細かい成績を気にする必要はないと思いますが、今までは本人が直接投稿するケースしか想定していなかったもので、いつか直したいと思っていました。

それから、少し気が早いですが「第54回神無一族の氾濫」についての募集要項を本稿末尾に掲載しました。今回のお題は「将棋の格言」。文字通り将棋の格言にちなんだ作品が募集対象ですが、フェアリーらしい「捻り」の利いた作品を歓迎します。解いた人がツッコミを入れたくなる作品をお寄せください。

さて、今回の WFP 作品展は昨年出題の第 127 回出題の再々掲載分と、第 128 回の新規出題分です。第 127 回は難しい作品が多かったと思います。解答募集期間は長いですが、皆さん解図は順調に進んでいるのでしょうか？

第 128 回は比較的易しいと思いますが、2 月は解答期間が短いことをお忘れなく。頭をお正月モードから通常モードに切り替えて解図に臨みましょう。

〔第 127 回作品展各題への補足説明〕（再掲）

第 127 回の出題は全 12 題。今回登場する作者は占魚亭氏、上田吉一氏、はなさかしろう氏、さんじろう氏、神無太郎氏、たくぼん氏、真 T 氏、くろねこ氏、変寝夢氏、青木裕一氏の 10 名です。今回の出題作は総じて難易度が高いですが、解答募集期間が通常より一ヶ月長いので、一題ずつコツコツと取り組んで、着実に正解数を増やしましょう。

127-1 は占魚亭氏による「Imitator&中立駒」3 部作の締めとなる作品。手順構成も最終形もこれまでとは異なるので、先入観を排して取り組んでください。

127-2 は上田吉一氏による PWC の趣向作。受方持駒「なし」なので、自玉を詰める駒は予想しやすいと思います。龍が中立駒なので、手番に注意しながら手順を進めてください。

127-3 ははなさかしろう氏による「推理将棋×透明駒」の 2 作目。**126-6** が余詰だったため、検討をやり直し、改めて投稿されたものです。手数が偶数手なので、このルールでは後手側に王手義務が課せられていることに注意して解いてください。

※追記：

既報の通り本作には余詰がありました。不詰ではないので解答募集はそのまま継続し、修正案等については結果稿で報告します。

「推理将棋×透明駒」の詳細なルール説明は先月号を参照してください。

127-4 及び **127-5** は、さんじろう氏による発掘物。Queen 王の双裸玉で持駒が桂のみという条件から 2 作が選ばれています。どちらも手順や詰上りに特徴がありますが、特に **127-5** の詰上りは意外性があると思います。

127-6 は神無太郎氏の点鏡作品。目標は攻方をスタイルメイトにすることなのですが、双裸玉なので盤上の駒を増やさないと目標は達成できません。点鏡らしい遠隔操作に注目です。

127-7 は、たくぼん氏の禁欲協力詰。狭い密室の中、禁欲の条件下でどの駒をどう取り、どんな方法で詰めるか。解答者の根気が試される作品です。

127-7 は All-in-Shogi の超短編。真 T 氏にしては珍しいと思われるかもしれませんが、解けば真 T 氏らしい手順だと納得できるはずですよ。

127-10 及び **127-11** は、くろねこ氏の協力自玉詰。Fairy TopIX 長編部門 1 位の **WFP114-10** を思い出す方も多と思います。今回は短編と中編ですが、解き応えは充分のはず。

127-11 は変寝夢氏のフェアリー駒作品。今回使われているのは Bishop-Lion という本作品展では初登場となる駒です。これは斜め方向に駒を 1 枚跳び越してから走る駒で、Lion (Queen 方向に駒を 1 枚跳び越してから走る) の利きを斜めに限定したものです。受方持駒「なし」なので、まず受方に駒を渡す方法を考えましょう。

127-12 は青木裕一氏の禁欲協力詰。**127-7** と同じルールですが、こちらは根気よりも、構想を看破する力が求められます。

〔第 128 回作品展各題への補足説明〕

第 128 回の出題は全 11 題 (ツインを含むため実質 12 題)。今回登場する作者は上田吉一氏、神無太郎氏、真 T 氏、占魚亭氏、たくぼん氏、堀内真氏 (合作)、高坂研氏、変寝夢氏、くろねこ氏の 9 名です。前回ほど難度は高くはないと思いますが、フェアリー駒絡みの作品が多いので油断は禁物です。2 月は解答期間も短いので、早めに解答に着手することをお勧めします。

128-1 及び **128-2** は上田吉一氏の作品。

128-1 は前回の **127-2** と同様、PWC と中立駒による趣向作。自玉を詰める駒が何かは見当が付くと思いますが、どうやってそれを呼び出すのでしょうか？

128-2 は Lion (鬘) というフェアリー駒を使った作品。Lion の変種である Bishop-Lion は前回の **127-11** (変寝夢氏作) で登場していますが、純粋な Lion の作例を見たい方は **WFP91-5** をご覧になると良いでしょう。

128-3 は神無太郎氏の点鏡作品。前回の氏の発表作から推測できると思いますが、盤上の駒が増えていきます。難解だとは思いますが、頑張ってください。

128-4 は真 T 氏の All-in-Shogi 作品。前回の作品と同時に投稿されたもので、ルールだけでなく詰上りにも共通点があります。受先形式のため初手に迷うと思いますが、思い切ってヤマ

を張るのが良いと思います。

128-5 は占魚亭氏の中立駒作品。**Imitator** が使われていないことにご注目を。2016年頃の作品だそうです。ツイン（組局）なので、片方を解けばもう一方も解きやすいと思います。

128-6 はたくぼん氏の強欲詰。今回唯一の協力系でないルール作品。「最善」指定は付いていません。ですから早詰はもちろん、長手数で詰む余詰もないはずです。

128-7～**128-9** は高坂研氏の作品。**128-7** は堀内真氏の余詰指摘を元にした作ということで、合作名義になっています。透明駒は使われていません。**128-8** と **128-9** は透明駒と性能変化系ルールの組み合わせ。**128-8** は達成目標が「詰」ではなく「スタイルメイト」であることにご注意を。

128-10 は変寝夢氏のフェアリー駒作品。使われているのは **Eagle**（鷲）です。**WFP99-2** でもこの駒が登場しているので、初めての方はこの作品で駒の利きに慣れるのが良いでしょう。

128-11 はくろねこ氏の協力自玉詰。このルールで 22 手という難しそうに思えますが、初手は一手しかありませんし、以後も比較的紛れが少ない手順が続きます。まずは、敬遠せず手を付けてみてください。

解答要項

第 127 回分解答締切:2021年2月15日(月)

第 128 回分解答締切:2021年3月15日(月)

宛先: **k7ro.ts@gmail.com** (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載しますが、投稿作が一回の出題数(12題)を越えた場合、出題時期を調整させていただきます。

宛先は解答と同じ **k7ro.ts@gmail.com** へ。

メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

ルール説明

※WFPのページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule119.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この **Imitator** が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

(補足)

- ・駒を打ったときは動かない。
- ・**Imitator** は元の駒と同時に動く

→参照: WFP75号「Imitatorの紹介」

【中立駒】(「♁」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に **n** を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

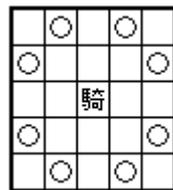
- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 中立歩による打歩詰は禁止。二歩禁も適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照: WFP61号「中立駒の紹介」

【Knight】(騎)

チェスの Knight。八方桂。

(○が騎の利き)



【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1)駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。
- 2)位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3)駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4)取られた玉は復元しないものとする。

※補足

駒取りが駒位置交換になるPWCの規則は中立駒にも適用される。中立でない手番側の駒との位置交換はできないことに注意。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

※「推理将棋×透明駒」のルールについては前回出題稿末尾の説明を参照してください。

【透明駒】

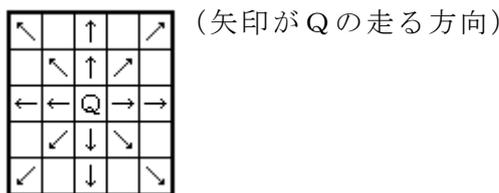
位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83号「透明駒の紹介」

【Queen】(Q)

チェスのQueen。飛車と角を合わせた性能を持つ。



【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【点鏡】

55に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

・行き所のない駒の禁則は適用されない

→初出：第108回WFP作品展(WFP127号)

【禁欲】

駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。

【All-in-Shogi】

双方とも自分の駒だけでなく相手の駒を動

かすこともできる。ただし、双方とも1手前の局面に戻す着手は禁手とする。

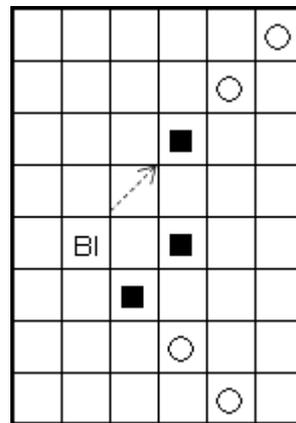
(補足)

- 1)相手玉を動かす王手や、相手の持駒を打つ手も可。
- 2)相手に相手の駒を取らせることはできない。
- 3)相手の駒に自分の駒を取らせたとき、その駒は相手の持駒となる。
- 4)自玉を取らせる手は反則

→参照：WFP122号「All-In-Shogiの紹介」

【Bishop-Lion】(Bl)

角の利きの方向にある駒を1つ跳び越えその先の任意のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。フェアリーチェスのLionの利きを斜めに制限したもの。

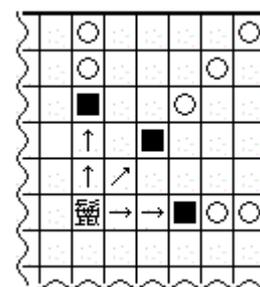


(○がBlの利き。
■は敵または味方の駒。○の地点が埋まっていると、その先には跳べない。)

【Lion】(鬣)

フェアリーチェスのLion。

クィーンの利きの方向にある駒を1つ跳び越えその先の任意のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。



(○が鬣の利き。
■は敵または味方の駒。○の地点が埋まっていると、その先には跳べない。)

【受先】

受方から指し始める。

【マドラシ】

同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。ただし、玉は除く。

【天竺】

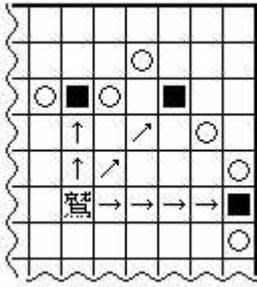
玉(王)の利きが王手をした駒の利きになる。

【Eagle】(鷲)

フェアリーチェスのEagle。

グラスホッパーの変種で、Queenの利きの方

向にある駒に到達した後、進行方向に対し
90° 曲がった場所に着地する。



(○が鷺の利き。■
は敵または味方の
駒。)

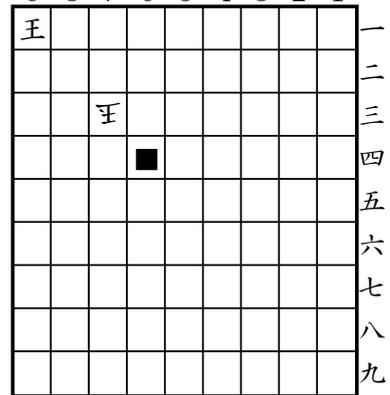


<第 127 回>解答締切:2021 年 2 月 15 日(月)

■ 127-1 占魚亭氏作

協力自玉スタイルメイト 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n 駒

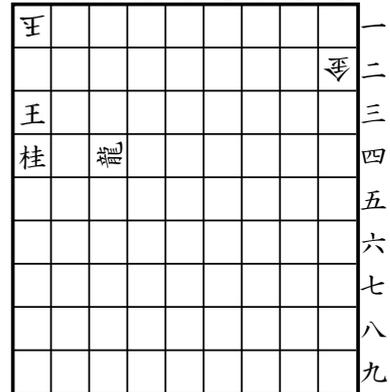
※■:Imitator

n 駒:中立 Knight

■ 127-2 上田吉一氏作

PWC協力自玉詰 48 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※74 龍は中立駒

■ 127-3 はなさかしろう氏作

推理将棋×透明駒 #2

[条件]

- ・駒 1 枚を透明化した
- ・4 手で詰んだ
- ・通常駒を取る手は 1 回

■ 127-4 さんじろう氏作

協力詰 19手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
			〇						七
									八
									九

持駒 桂3
※Q:Queen王

■ 127-5 さんじろう氏作

協力詰 25手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂4
※Q:Queen王

■ 127-6 神無太郎氏作

点鏡協力白玉スタイルメイト 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂

■ 127-7 たくぼん氏作

禁欲協力詰 63手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀2歩

■ 127-8 真T氏作

All-in-Shogi協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

■ 127-9 くろねこ氏作

協力白玉詰 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛角金銀

■ 127-10 くろねこ氏作

協力白玉詰 30手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

銀	銀									一
金	王	飛								二
	と	金	金	桂						三
王										四
		と		銀						五
	角	桂	と						飛	六
	歩		桂	金						七
		銀	桂							八
										九

持駒 なし

■ 127-11 変寝夢氏作

協力白玉詰 20手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王		一
										二
										三
								王		四
		金	Bl	金						五
										六
										七
	歩									八
										九

攻方持駒 桂
受方持駒 なし

※Bl:Bishop-Lion

■ 127-12 青木裕一氏作

禁欲協力詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				飛						一
										二
										三
					歩					四
						金				五
		皇	王							六
			飛		歩					七
										八
						金				九

持駒 なし

■ 128-1 上田吉一氏作

PWC協力白玉詰 44手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

						と	王			一
						金				二
								王		三
								歩		四
										五
										六
										七
										八
歩										九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※32馬は中立駒

■ 128-2 上田吉一氏作

協力白玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
						王	鬮	歩		三
										四
						歩	王	桂		五
										六
										七
										八
										九

持駒 角金
※鬮:Lion

■ 128-3 神無太郎氏作

点鏡協力白玉スタイルメイト 10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
								王		七
										八
									王	九

持駒 桂

■ 128-4 真T氏作

All-in-Shogi協力詰 6手(受先)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

■ 128-5 占魚亭氏作

a) 協力自玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
								王	八
									九

持駒 nQ

※nQ:中立Queen

b) 協力自玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
				王					二
									三
									四
									五
									六
									七
								王	八
									九

持駒 nQ

※nQ:中立Queen

■ 128-6 たくぼん氏作

強欲詰 85手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
		歩	歩	王			驥		二
	香	香	ス		馬	ス			三
桂	科	圭	香	王	と		ス		四
		歩	歩		角	ス			五
	歩		歩			ス	歩		六
	銀	と	と	と	と	飛			七
			桂				歩		八
銀	銀	王	王	王	王			香	九

持駒 なし

■ 128-7 堀内真氏+高坂研氏作

マドラシ協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
				王					五
							歩		六
								銀	七
								王	八
									九

持駒 飛角

■ 128-8 高坂研氏作

天竺協力自玉スタイルメイト 2手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
								歩	二
					王				三
									四
					王				五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

※透明駒:攻方 0枚、受方 1枚

■ 128-9 高坂研氏作

点鏡協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
					銀	王		二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 飛

※透明駒:攻方 1枚、受方 0枚

■ 128-10 変寝夢氏作

協力詰 15手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
							歩	四
								五
							歩 歩	六
								七
							歩	八
						王		九
								九

攻方持駒 鷲

受方持駒 なし

※鷲:Eagle

■ 128-11 くらねこ氏作

協力自玉詰 22手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 なし

「第 54 回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第 54 回神無一族の氾濫」への参加を募ります。今回のお題は「将棋の格言」です。

将棋の格言に忠実な手順や、格言に反する手順をフェアリーらしく表現した作品をお寄せください。

例) 「三桂あって (自分が) 詰まぬことなし」

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 桂3

18桂 同飛生 38桂 同飛生

18桂 同飛上成 まで 6手

なお、作品投稿時は関連する格言を添えてください。

出題時は元の格言 (上の例なら「三桂あって詰まぬことなし」) を明示しますが、作品と格言がどう関連するかは伏せて出題します。

また、1題通常の協力詰 (ばか詰) を募集します。こちらは必ずしもお題とは関係なくとも構いませんが、お題に合った作品を優先して採用したいと思います。

作品要件	将棋の格言にちなんだ作品
募集締切	2021年4月18日(日)
募集作品数	4 + 1 (協力詰枠)
送り先	神無七郎 (k7ro.ts@gmail.com) 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1人何作でも投稿可。採否は4月25日までに通知します。

以上

Fairy of the Forest #65出題

- 2020年10月20日：課題発表：(協力詰)
- 「自由課題」
- 2020年12月15日：投稿締切
- 2021年01月15日：投稿再締切
- 2021年01月20日：出題
- 2021年02月15日：解答締切
- 2021年02月20日：結果発表

■ 出題

前回の賑わいが嘘のように、今回は元の静けさに戻ってしまいました。正に「祭りの後」という感じです。

01は客寄せ、02・03も手数割に易しい。実力者には物足りないかも知れませんが、初めての方にも楽しめる内容です。

年始めで時間が取れない人も片手間に解けそう。ぜひ取り組んでみてください。

(解答先)

→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

■ 65-01 たくぼん

協力詰 5手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
			飛							二
					王					三
				歩		銀				四
		角	角	飛						五
			玉							六
										七
										八
										九

持駒 なし

■ 65-02 小林看空 協力詰 23手

協力詰 23手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	銀		歩							一
香	角									二
歩										三
										四
	歩									五
										六
										七
										八
							王		玉	九

持駒 なし

■ 65-03 たくぼん 協力詰 53手

協力詰 53手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
	角	角								四
	銀	銀	銀	銀	金	金	金	金	飛	五
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	六
	入						飛			七
		歩		歩		歩		歩		八
	入							王		九

持駒 なし

推理将棋第135回出題(1/8 修正)

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第135回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2021年2月10日までに TETSU まで

(omochabako@nifty.com) メール の 題名は「推理将棋第135回解答」をお願いします。今回は年賀推理将棋特集ということで、解答者全員の中から抽選で2名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！ 1題でも解けたらぜひご解答ください。

推理将棋第135回出題 担当 Pontamon

皆さん、あけましておめでとうございます。本年も推理将棋をよろしくお祈りします。

2021年最初の出題は恒例の年賀推理将棋です。2021年、令和3年、1月1日、丑(牛)などにまつわる8作品です。締切日に投稿いただいたNAOさんには無理を言って2作目を作っていたいただき、2作ずつの出題になりました。

難度設定は手数主体で付けています。

■本出題

135-1 初級 けいたん 作
馬では詰まない 9手
ソッポへではなく同じ地点への馬着手では詰まずツノで詰める。

135-2 初級 Pontamon 作
十ノ一 10手
馬寄の棋譜を実現できるように馬2枚を配置する必要があります。

135-3 中級 ミニベロ 作
2021年 新年指導対局 10手
手合割は飛車落ち。飛があると詰まない詰み形になるのか？

135-4 中級 けいたん 作
牛のツノ 11手
年賀条件はもちろん最終手の「21銀」。ツノ銀雁木との関係は？

135-5 中級 NAO 作
令和3年の決め手 11手
決め手(最終手?)は21。他に勝敗を分ける決め手があるのか？

135-6 上級 NAO 作
初成りの初王手 11手
11手詰の3作品とも最終手は21。本作は21での初成初王手です。

135-7 上級 ミニベロ 作
令和三年 年賀詰 13手
年賀条件らしいのは年賀状の牛の部位のイラストという会話？

135-8 上級 Pontamon 作
丑年の初詣は善光寺 21手
対局中の世間話。過去問では会話にヒントが隠されている事も。

135-1 初級 けいたん 作
馬では詰まない 9手

「2021年の指し初めは9手で詰みか」
「最終手は角不成で詰んだが、同じ地点への馬では詰まなかったね」
「最終手は桂を取ったな」
「不成は1度だけだね」
「11の手もあり、2021年の年賀に相応しい対局だった」
さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・9手で詰み
- ・最終手は角不成で詰んだが、同じ地点への馬では詰まなかった
- ・最終手は桂を取った
- ・不成は1度だけ
- ・11の手があった

135-2 初級 Pontamon 作
十ノ一 10手

「指し初めの「くノ一」対決は、棋譜に同角成2回と馬寄1回がある10手で詰めました」
「2021年に相応しく、2と1か」
「推理将棋風に言えば、10手詰1条件ですし、今年の十二支にもなる「十ノ一」です」

「馬の条件があるし「十ノ一」は午のことだね。でもそれだと5年早いよ」
「ええ～「十ノ一」と言えば牛でしょ」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・10手で詰み
- ・棋譜に同角成2回と馬寄1回

135-3 中級 ミニペロ 作
2021年 新年指導対局 10手

「さっき先生に、新年指導対局を飛車落ちで教わったんだ」

「初手は3筋だったね。この場合は、34歩か32金か32銀だね」

「1段目の着手は僕の3回だけだったけど、あっさり10手で詰ましちゃった」

「不成りで取った駒を次の手で打った手があったね」

「丑年だから、勝ったご褒美は牛井らしいんだけど、ステーキのほうがいいな」

「丑年ってそういうことなの？ 2021年は牛にとって受難の年になりそう！」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

手合割：飛車落ち

- ・10手詰
 - ・1段目着手は下手の3回のみ
 - ・不成で取った駒を次の手で打った
 - ・初手は3筋
- ※ 飛車落ちですので、上手（平手の後手番側）から指し始めます

135-4 中級 けいたん 作
牛のツノ 11手

「2021年1月1日に対局をしたよ」

「ところでツノ銀雁木戦法は銀を牛のツノに見立てたものだそうだね」

「21銀まで11手で詰みか」

「打った駒を次の手で取られたな」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・11手で詰み
- ・最終手21銀
- ・打った駒を次の手で取られた

135-5 中級 NAO 作
令和3年の決め手 11手

「あけましておめでとう。指し初めの一局はどうだった？」

「11手で詰ませて勝ったよ。成の手、不成の手、同の付く手、玉頭の手は各々1回ずつだった」

「新年早々"1"尽くしとはめでたいね」

「それだけじゃないよ。3連続王手を掛けて2一の手が決め手だった」

「令和3年元旦の指し初めに相応しい一局だね。今年もよろしく」

さて、どんな将棋だったのだろうか。そして令和3年、貴方の勝負手は？

(条件)

- ・11手目に21地点の着手で詰んだ
- ・先手は3連続で王手を掛けた
- ・成の手、不成の手、同の付く手、玉頭の手は各々1回ずつだった

135-6 上級 NAO 作
初成りの初王手 11手

「あけましておめでとう」

「おめでとう。指し初めの将棋、途中まで観戦させてもらったよ。」

後手は玉を2回、1手おきに動かしていたね。その後どうなった？」

「11手目に21地点への初成り、初王手で詰ませて勝ったよ。」

3筋に指した大駒の手に対し大駒の手で応じたのが勝負の分かれ目だった」

「新年早々から絶好調だね。今年もよろしく」

さて、指し初めの一局はどんな将棋だったのだろうか。

(条件)

- ・ 11 手目 21 地点への着手が初成りの初王手で詰んだ
- ・ 後手は玉を 2 回、1 手おきに動かした
- ・ 3 筋に指した大駒の手に対し大駒の手で応じた

1 3 5 -7 上級 ミニベロ 作
令和三年 年賀詰 1 3 手

「はい、1 3 手目の初王手で詰み。僕は偶数筋には着手しないで勝ったよ」
「駒を取ってすぐに駒を取ったその筋に打つ手が 3 回あったね」
「金の手は 4 手目だけか。変な将棋だったね」
「ところで、令和三年の年賀状は書いた？」
「書いたよ。今年は丑年だから、レバーとかミノとか、牛の部位のイラストにしたよ」
「.....。」

さて、どんな手順だったのでしょうか。
(条件)

- ・ 1 3 手目の初王手で詰み
- ・ 先手は、偶数筋には着手しなかった
- ・ 駒を取ってすぐに駒を取ったその筋に打つ手が 3 回あった
- ・ 金の手は 4 手目だけ

1 3 5 -8 上級 Pontamon 作
丑年の初詣は善光寺 2 1 手

「あけましておめでとう。お邪魔します」
「今年もよろしく。では、指し初めと行くか」
「(パチ)今年は 2021 年か、コロナ禍はどうなるのかな。コロナは王冠が語源だってね」
「(パチ)東京五輪を開催できるのかな。トップ選手のぶつかり合いを観たいなあ」
「(パチ)今日は善光寺さんへ初詣した帰りなんだ」
「(パチ)丑年の初詣は善光寺か。「牛に引かれて善光寺参り」の由来はなんだっけ？」
「おっと、駒成は無かったのにこの 21 手目で詰みだね」
「21 と 11 への玉の手は 2021 年 1 月 1 日らしい手だったね」
「後手のある駒の頭へ先手の盤上のある駒を連続で 5 回ぶつけた手も今年らしい」

「そうだね、何度も頭をぶつけるのは牛の角突きみたいだったね」
「頭と言えば、玉頭の歩を突く手があったね」
「玉から角が伸びたみたい。奥さんが角を生やす前に帰った方がいいよ」

さて、どんな手順だったのでしょうか。
(条件)

- ・ 駒成なく 21 手で詰み
- ・ 21 と 11 への玉着手があった
- ・ 後手のある駒の頭への先手の盤上のある駒の着手が連続で 5 回
- ・ 玉頭の歩を突いた

推理将棋第134回出題解説

推理将棋第134回解説 担当 Pontamon

前回の133回は易し過ぎとの短評があり、例年、年の終わりの出題は難しくする傾向なのですが、ちょっとやり過ぎてしまったようで、全解答者が1桁の9名まで落ち込んでしまいました。中々、手加減が定まりません。

134-1 初級 Pontamon 作 角成では詰まない 9手

「あっちの対局で、先手は3種4枚の後手駒が利いている玉腹へ着手したってね」

「9手で詰んだけど、角成では詰まないから他の駒が成ったらしいよ」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・ 9手で詰み
- ・ 先手は3種4枚の後手駒が利いている玉腹へ着手した
- ・ 最終手は駒成だったが角成では詰まなかった

出題のことば (担当 Pontamon)

駒が直接利く最多は10枚。過去作を研究していれば3回目のこの類作は楽勝？

締め切り前ヒント

すみません、おもちゃ箱では132回に続いて今回が2回目の類作/変化手順でした。

推理将棋134-1 解答

▲46歩、△34歩、▲45歩、△44角、▲同歩、△42玉、▲52角、△51金左、▲43歩成まで9手

(条件)

- ・ 9手で詰み
- ・ 先手は3種4枚の後手駒が利いている玉腹へ着手した (7手目▲52角)
- ・ 最終手は駒成だったが角成では詰まなかった (9手目▲43歩成)

詰上り図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	王	王		爵	科	皇	一
	進			角	王				二
歩	歩	歩	歩	歩	と		歩	歩	三
						歩			四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

角成では詰まないなので他の駒が成って詰んだとのことですが、これは余詰みがありそうな怪しい条件になっています。「同じ地点への角成では詰まずに他の駒が成って詰んだ」とは言っていないので、条件をクリアできる手順が沢山ありそうな気がします。

参考1図では、余詰みチェックの際には欠かせない「はてるま手筋」で詰めてみたものです。図を見ると最終手の▲61飛成で詰んでいて、この▲61飛成の代わりに82の角が▲71角成とか▲91角成としてもそもそも王手になっていないので「角成では詰まないなので他の駒が成って詰んだ」の条件をクリアしています。7手目の▲62飛は、後手の玉と銀と2枚の金の3種4枚の駒が利いている地点への着手ですが、玉の腹への着手ではないし、手数オーバーの11手でした。

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	龍		王		科	皇	一
	角				王	爵	皇		二
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
		歩							四
									五
歩		歩							六
	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 金

参考 1 図：▲76 歩、△74 歩、▲55 角、△52 金左、▲82 角不成、△32 銀、▲62 飛、△41 玉、▲96 歩、△42 金、▲61 飛成 まで 11 手

「3 種 4 枚の後手駒が利いている玉腹への着手」の条件がかなりキツイようで、沢山ありそのような余詰みを消しているようです。そこで、後手の駒で 3 種 4 枚が利いている地点を作る駒配置を考えてみます。

玉腹にならないいけないので、居玉の場合は横の金を動かして先手の着手場所を作る必要があります。配置としては、32 銀、31 金、42 金、51 玉の居玉の時の 41 地点ですが、この駒配置には 4 手が必要です。次に居玉の反対側だと、62 飛、72 銀、71 金、51 玉での 61 は 3 手で配置可能ですが 4 種 4 枚。

玉が 2 段目に上がれば玉腹を作り易そうです。51 金、61 金、82 飛、52 玉の配置では、2 手だけで条件をリアする 62 地点を作り出せません。参考 2 図では△52 玉と△51 金左の 2 手で作った後手駒 3 種 4 枚が利いている 62 地点へ▲62 角不成とした手順で、最終手▲53 角成では詰まず▲53 桂成なら詰む手順になっていますが手数オーバーの 11 手でした。

参考 2 図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
皇	科	駒	角	玉	駒	科	皇		一	
			角	玉			皇		二	
歩	歩	歩	歩	圭	歩	歩	歩	歩	三	
				歩					四	
									五	
		歩							六	
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七	
							飛		八	
香		銀	金	玉	金	銀	桂	香	九	

持駒 飛

参考 2 図：▲76 歩、△62 飛、▲44 角、△52 玉、▲77 桂、△51 金左、▲65 桂、△54 歩、▲62 角不成、△41 金、▲53 桂成 まで 11 手

しかし、この失敗手順には解図のヒントがありました。玉の退路の 51 地点を抑えていた角を

▲53 角成としてしまうと玉の退路ができてしまうので角成は出来ず、桂成が必須になっています。手数が長ければ、自分の角が動くとき自玉への王手放置の反則になる場合もありますが、9 手では角が動くことによって玉の退路が出来てしまうというこの仕掛けが濃厚です。

あとは参考 1 図や参考 2 図だと手数オーバーしているので手数を切り詰める工夫が必要です。後手駒の 3 種 4 枚が利いている地点を作り出すのに、参考 1 図のように 1 手で出来る配置はないのでしょうか？

△42 玉とした時の玉腹の 52 地点は、玉、飛、2 枚の金が利いている地点になります。角成では詰まないという条件があるので、この 3 種 4 枚の駒が利いている焦点には先手の角の着手をするということで詰み形を考えてみます。

角で玉の退路を抑えている配置にするには、▲52 角の後で△51 金左とすれば、玉尻の 41 地点が空き、そこを 52 の角が抑えている形になります。ということは、玉頭の 43 地点で 52 の角を支えにして角以外の駒を成る必要があります。また、52 地点は角筋ではないので、先手は角を取ってから▲52 角と打つこととなります。43 地点で成れる駒は何でしょう？通常なら、9 手では 5 手目に角以外の駒を取って、7 手目に 43 で成れるような地点へその駒を打って、最終手で成るという手順ですが、先手は角を取ってから打つ手も必要なので手数的に無理です。そうすると盤上の駒の利用が必要になりますが、飛車が出て行くのも手数が掛かりますし、桂の 3 段跳ねでは 43 ではなく 53 地点なので駄目です。となると歩の遅早でお馴染みの歩しかありません。

先手は 4 筋の歩を突き進めて行く途中で後手の角を取って、▲52 角と打ちます。初手から、▲46 歩、△34 歩、▲45 歩、△44 角、▲同歩、△42 玉、▲52 角となり、前述のように玉の退路を作る△51 金左が 8 手目になり▲43 角成での詰みを外します。最終手は▲43 歩成での詰みとなります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

ミニベロさん「自分でも出題しているはずなのに、またしてもこの順に気がつかない。76歩からでは際どく詰まないとは、うまくできてる。」

■「玉腹」が無い、後手の3種4枚の条件だけでは別手順がいくつかありました。

NAOさん「角成では詰まないから他の駒が成った」が絶妙。「角成」で詰む紛れが多く難しかった。初手76歩と突くとドボン。」

■角と他の駒との連携で詰む形をあれこれ考えて行くと解くのが難しくなりました。

ほっとさん「歩を突いて行って角を取るのとは前例がいくつかあるが、それらと比較すると条件が多くてシンプルさに欠けるか。」

<https://open.mixi.jp/user/10857363/diary/1965803664>

[http://toybox.tea-](http://toybox.tea-nifty.com/memo/2016/06/post-722d.html)

[nifty.com/memo/2016/06/post-722d.html](http://toybox.tea-nifty.com/memo/2016/06/post-722d.html)

■最初のURLで紹介されているページに記載がある川上和秀さんの詰パラ作品が原型で、角位置違いがおもちゃ箱の132-5。本作は角成では詰まない別の詰み上がりになっています。

RINTAROさん「忘れた頃に出題されたら、悩んだでしょう。」

■2ヶ月前出題の132-5ですが、それに繋げることができた勘の良さ。

飯山修さん「銀や飛車を取る順が全てダメなところが凄い。52角発見の喜びに気をとられウツカリ51金右としそう」

■132-5と後手配置が同じだと角成でも詰んでしまいます。最後の罠がありました。

はなさかしろうさん「今回の最難関。9手の攻め方のバリエーションを一通り思い出せるかですし、4筋歩突きは確かに初見ではないのですが…132回を遡るまで、この条件とは繋がりませんでした。参りました。」

■出題のことばではヒントにもならないことが書かれていることが多々あります。3回目（実

は132-5に続いて2回目だった）の形と言われても132-5には繋がらなかったでしょう。

小山邦明さん「今回の3問の中で一番苦戦しました。76歩からスタートしたため、どうどう巡りをして締め切り直前の解答になりました。」

■締め切り前ヒントは132回の6題の見直し。132-5は角成でも詰む形なので直球ヒントにはならなかったでしょう。

諏訪冬葉さん「△42玉に▲52角と打つ手はすぐ浮かんだのですが最後に成る駒が見つかりませんでした。」

■△42玉に▲52角の形ができていても、歩突きが中々見えなかったようですね。

正解：8名

ミニベロさん NAOさん ほっとさん

RINTAROさん 飯山修さん はなさかしろう

さん 小山邦明さん 諏訪冬葉さん

134-2 中級 渡辺秀行 作
3筋の歩突きまで 11手

「11手目3筋の歩突きまでで詰めたよ。33に角が成ることはなかったよ」

「最後の歩は成ったのかい？」

「いや、歩を成る場合は歩突きとは言わずに歩成と言うよ」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・11手で詰み
- ・最終手は3筋の歩突きで、歩成ではない角は33で成らなかった

出題のことば（担当 Pontamon）

悩ましい否定条件は無かったことにして、歩突きで詰む形から解きましょう。

締め切り前ヒント

33への角着手、33以外での角成もありました。35の玉を歩・角・馬で詰めます。

▲76 歩、△52 玉、▲33 角不成、△44 歩、▲22 角成、△43 玉、▲14 角、△34 玉、▲23 馬、△35 玉、▲36 歩 まで 1 1 手

(条件)

- ・ 11 手で詰み
- ・ 最終手は 3 筋の歩突きで、歩成ではない (11 手目▲36 歩)
- ・ 角は 33 で成らなかった (3 手目▲33 角不成)

詰上り図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
皇	科	鷲	雫		雫	鷲	科	皇	一	
	飛								二	
歩	歩	歩	歩	歩			馬	歩	三	
					歩			角	四	
						王			五	
		歩				歩			六	
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	七	
							飛		八	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九	

持駒 歩2

「角は 33 で成らなかった」のような否定文の条件は非常に悩ましいものです。「33 で角不成の手があった」の条件なら何も悩むことは無いのですが…。否定文の条件があった時、その文を更に否定して肯定文にして条件を理解することはありませんか？実はそれは間違いを犯す原因になります。

簡単な例として「駒成の手は無かった」で説明します。「駒成」と「不成」は対で使われる語ですが、片方の否定が他方ではありません。

「AならばB」の否定（裏）は、「AでないならばBでない」になります。「駒成の手」の否定は「駒成ではない手」であって「不成の手」ではありません。「駒成ではない手」には勿論「不成の手」もありますが「持ち駒を打つ手」や単純に「盤上の駒を動かす手」も該当します。過去問の殆ど（全て？）で、「不成なし」なら「駒成があった」、「駒成なし」なら「不成があった」と信じて解図されていると思います

し、それで何の不都合も生じなかったはずで、しかし、条件の裏（否定）で解図しても、所詮、裏は真ではないので、正しいと思うのは危険です。経験が災いして、否定（裏）も正しいと思うのも先入観のひとつでしょうか。

極論を言えば、「角は 33 で成らなかった」だと角着手が無い手順もこの条件をクリアできることとなります。33 で角が成らなかったと言っても、33 以外で角成があったと言っているものでもありません。否定文の条件は、実は、作者や担当には余詰みの心配満載な条件なのです。

参考 1 図は、角成も 33 への角着手も無い手順で、最終手を 3 筋の歩突きで詰ませてみたものです。後手陣から遠い先手の歩突きで詰ませるのであれば第一感は一感王手でしょう。3 手目に 22 で取った角を 27 へ打って、36 の歩を突いての空き王手で 54 の玉を詰めたのですが、手数オーバーの 13 手になってしまい失敗でした。

参考 1 図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
皇	科	鷲	雫		雫	鷲	科	皇	一	
	飛						角		二	
歩	歩	歩		歩	歩		歩	歩	三	
			歩	王					四	
							歩		五	
		歩	歩				歩		六	
歩	歩			歩	歩		角	歩	七	
							飛		八	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九	

持駒 歩

参考 1 図：▲76 歩、△34 歩、▲22 角不成、△64 歩、▲26 歩、△52 玉、▲36 歩、△63 玉、▲27 角、△54 玉、▲66 歩、△35 歩、▲同歩 まで 13 手

参考 1 図の手順では、角道を遮るための▲36 歩の 1 手が勿体ない気がします。初期配置の歩の壁の後ろへ角を打てば 3 筋の歩着手は▲36 歩だけで済むはずで、▲48 角からの▲36 歩だと後手玉は 15 まで来ている必要があります、後

手の5手全てが必要なので、玉の退路となる14や24、25地点を先手がカバーする必要があって手数が足りません。となると歩の壁の後ろへ角を打つ地点は28になります。28には初期配置の飛が居るので飛を動かす手が必要です。参考1図でも▲27角を打つために▲26歩の1手が必要だったので、飛の移動は手数増加にはならないはず。後手の角を取ることと、28地点を空ける一石二鳥の手があります。それは△88角成を▲同飛で取る手です。参考2図はこの一石二鳥の手で28地点を空けて、▲28角と打ってから▲36歩の空き王手で64の玉を詰めた手順になります。

参考2図：▲76歩、△74歩、▲33角成、△62玉、▲43馬、△88角成、▲同飛、△73玉、▲28角、△64玉、▲36歩まで11手

参考2図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	銀	玉		玉	銀	科	皇	
二		飛								
三	歩	歩		歩	歩	馬		歩	歩	
四			歩	王						
五										
六			歩				歩			
七	歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	
八		飛						角		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩2

これで無事に解けたと思いきや、「角は33で成らなかった」という条件と正面衝突していました。参考2図の手順では▲33角成があるので条件をクリアできていませんでした。

この▲36歩の空き王手ですが、手順や不成条件が少し違う作品が詰将棋パラダイスの2009年12月号で出題されていて、年間最優秀賞だったそうです。

▲35歩や▲36歩の空き王手でないのなら3筋の歩突きで玉頭直撃での詰みのはずです。3筋の5段目玉なら2筋や4筋の6段目は初期配置の歩が利いているので、玉の両脇と背後3地点を先手が抑えていれば▲36歩で詰む形があり

そうです。

最終手の▲36歩を支える駒は何でしょう？▲38飛で歩を支えることはできますが、最終手を支えるだけの手なので効率がよくありません。先手は玉の左右や後方3地点を抑える必要があるからです。例えば、角を取って▲14角と打てば、玉腹の25地点をカバーしつつ最終手の▲36歩を支えることができます。では45の地点はどうやって抑えることができるでしょうか？45以外にも後方3地点があります。中段玉、しかも5段目玉の場合、玉と同じ筋の3段目へ馬を配置すれば、後方3地点を馬一枚で抑えることができますが、45地点も同時にカバーするには▲23馬になるでしょう。▲23馬なら、45地点と玉の後方3地点のうちの2地点をカバーできます。残る地点は44です。

▲23馬を実現するには、33での角成は条件で禁止されているので、▲33角不成から▲24角成の後に▲23馬の経路がありますが、それでは14へ打つ角の入手ができません。先手は▲33角不成、▲22角成、▲23馬の手順になりそうです。これらの地点に角や馬があっては後手玉は33を通過して35地点へ向かうことができません。玉が角/馬とすれ違うために△44歩と歩を突いてから△43玉、△34玉、△35玉の経路になります。そうすれば44地点は後手の歩があるので玉の退路にはなりません。

3手目の▲33角不成を実現するために△44歩は4手目以降になります。2手目は6手目に△43玉ができるように、また3手目の▲33角不成が王手にならないように△52玉とします。したがって、初手から、▲76歩、△52玉、▲33角不成、△44歩、▲22角成、△43玉になります。後手の次の手は△34玉ですが▲23馬が先に指されていると34地点への玉移動ができません。なので7手目は▲14角で、続いて△34玉、▲23馬、△35玉、▲36歩で詰みになりました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

ミニベロさん「開き王手と決め打ちしたが、すべて際どく逃れている。やむなく物理的な36歩に切り替えてやっと見つけた。

否定条件は危険がいっぱいだ、この作者なら大丈夫か。

2枚の角筋に絡め取られたあまり見ない詰め上がり。「くもの糸」と命名したい秀作。」

■角や馬では王手は掛けていないけど、周囲への行き場を無くす「くもの糸」。

NAOさん「33角成が可能であれば64玉を開き王手で詰ます筋(詰パラ58番)が浮かぶが、これを封じられて難しかった。

44歩～14角～23馬がこれしかない組合せの詰形で34を通る玉の経路が見えづらい。」

■玉を15,25,35などへ移動するのなら33を通るのが当然な気がするので見つけにくい玉の経路。

ほっとさん「最終手36歩と言えばあの名作を思い出す。ちなみにこちらは手順中に33角成がある。」

https://mixi.jp/view_bbs.pl?comm_id=1938094&id=47643181

■▲33角不成、▲42角成、▲43馬では11手に間に合わず、空き王手は▲33角成が必須な手順になっていて、これを排除するための「角は33で成らなかった」の条件でした。

RINTAROさん「完璧な手順。条件はこれしかなかったのかな。」

■「条件が違えば別作品」ですので、本作の条件と結び付き難い条件を探してみるのも推理将棋の楽しみ方のひとつ。上手い条件違いや派生作などがありましたら是非投稿してください。派生作の例：11手で詰み／1段目で駒成があった／ある駒を着手した4地点の筋と段の数字を足すと全て7だった（余詰んでるかな）

飯山修さん「パラの過去問で64玉に対して28角の効きを通す36歩の作品が頭にあり直前ヒント迄素直な突き歩を考えもしなかった」

■▲36歩の空き王手の変化で▲33角成を回避する手順を探されたのでしょうか。

はなさかしろうさん「玉を34で詰ませたかったのですが果たせず、ヒント待ちに。機能的で

美しい詰め上がりでした。」

■34の玉を▲35歩で詰ます形は考えもしませんでした。詰みがあったら余詰みになるどころでした。

小山邦明さん「35玉で36歩突きの収束形を最初に推理したので、かなり早く解けました。」

■最初の閃きが功を奏したようですね。

諏訪冬葉さん「中段玉は苦手です。」

■玉が5段目まで上がると、初期配置の相手の歩が並んでいるのでスカスカ見えても玉の両脇と後方をカバーするだけで済みます。

原岡望さん「これで詰みとは意外」

■ミニベロさん曰く「くもの糸」。玉周りがかかなり空いている感じを受けます。

正解：9名

ミニベロさん NAOさん ほっとさん

RINTAROさん 飯山修さん はなさかしろうさん 小山邦明さん 諏訪冬葉さん 原岡望さん

134-3 上級 ミニベロ 作
金と金の間 12手

「この12手目で詰みだね」

「おお、金と金の間に着手とは、お見事でした」

※

「珍しい終局図だね。成る手もなかったし」

「玉の隣に指した3手目がまずかったかな」

さて、どんな将棋だったのでしょうか。

景気のいい詰め上がりを見つけてくださいね！

※12手目の駒が 前後か左右に、金に挟まれている詰め上がり

(条件)

- ・12手で詰み
- ・最終手は、金と金の間
- ・3手目は、玉の隣
- ・成る手なし

出題のことば (担当 Pontamon)

3手目条件が可能なのは16通り。どの形が詰みへ至るのか推理してください。

締め切り前ヒント

最終手は先手の初期配置の金2枚の間の59。
最終手を同で取れないケースは2つ。

推理将棋 1 3 4 - 3 解答 担当 Pontamon

▲68玉、△34歩、▲78銀、△55角、▲36歩、
△28角不成、▲56歩、△57飛、▲46歩、△同角不成、▲79玉、△59飛不成 まで12手

(条件)

- ・12手で詰み
- ・最終手は、金と金の間(12手目△59飛不成)
- ・3手目は、玉の隣(初手▲68玉、3手目▲78銀)
- ・成る手なし

詰上り図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	王	王	爵	科	皇		一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
				歩	歩				六
歩	歩	歩	歩				歩	歩	七
	角	銀							八
香	桂	玉	金	飛	金	銀	桂	香	九

持駒なし

前後か左右の金と金の間への最終手で詰みとのことですが、金配置が前後でも左右でも最終手の駒を取られないようにするには、金2枚は後手の金である必要があります。後手が先手の金を2枚とも取って打つ手順は間に合うのでしょうか？

初手の▲58玉の腹へ3手目に▲68金とすれば、最短の6手目に後手は角で金を取ることができます。続けて8手目にもう1枚の金を取れるように7手目は▲59金。取った2枚の金を打つには10手目と12手目の2手が必要なので、最終

手は12手をオーバーしてしまいます。一応、その方針で詰みまで進めてみたのが参考1図ですが、金2枚の他に最終手のための飛も取る必要があります。結局、16手が必要でした。

参考1図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	王	王	爵	科	皇		一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩		歩	四
								香	五
									六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩		七
	角			玉	皇				八
香	桂	銀	爵	飛	爵	銀	桂		九

持駒なし

参考1図：▲58玉、△34歩、▲68金、△77角不成、▲59金、△68角不成、▲48飛、△59角不成、▲16歩、△48角不成、▲15歩、△69金、▲14歩、△49金、▲15香、△59飛 まで16手

金を2枚とも後手の駒にすることができないことが証明されてしまいました。金2枚のうちの1枚が先手の金であるならば、金の配置が前後でも左右でも、金の間への最終手の駒を同金で取られてしまうはずですが、その先手の金をピンして動けなくすれば良いことに気がきます。後手は金を1枚だけ取って、最終手の支えに使えば、参考1図よりは金を取る手と打つ手の2手は縮まりそうです。もう1枚の先手の金は動けないようにピンする詰み上がりを考えたのが参考2図の手順です。57の先手の金は46の角でピンされているので、最終手の△58飛を▲同金で取ることができません。玉腹への△58飛の支えは△59金です。参考2図は確かに詰んでいますが、手数が14手なので2手オーバーしましたし、3手目は玉腹の条件も満たしていませんでした。

参考2図：▲36歩、△34歩、▲38金、△55角、▲37金、△同角不成、▲68玉、△28角不成、▲58金、△59金、▲56歩、△46角不成、▲57金、△58飛 まで14手

参考 2 図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	桂	銀	玉	玉	銀	桂	皇		一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
				歩	歩	歩			六
歩	歩	歩	歩	金	歩		歩	歩	七
	角		玉	銀					八
香	桂	銀		玉		銀	桂	香	九

持駒 なし

金 2 枚を取ると 4 手オーバー、金 1 枚を取ると 2 手オーバーでしたので、後手が金を取らなければ 12 手になるのでないかという、根拠の無い妄想をしてしまいます。最終手の駒を▲同金で取られてしまう心配は、参考 1 図や参考 2 図のように最終手の駒で王手を掛けているからです。最終手の駒が、空き王手にするために移動した駒であれば、先手は実際に王手を掛けている駒に対処しなければいけないので最終手の駒を▲同金で取ることはありません。角筋にない金を後手に取らせるには先手の協力が必要ですが、今回は金を動かす必要はないので、最終手の金の間は 59 地点になるでしょう。(もちろん 3 手掛けて金を縦配置にした時の 48 や 68 地点も最終手の候補地点にはなりません) 左右に金がある 59 地点への着手の両王手は 59 の駒の支えが必要だったり、86 の玉に 26 の角が 59 へ移動して 16 の飛とで両王手にするなど手数がかかるものしか無さそうです。となると、単純な空き王手なので王手を掛けているのは 1 枚の駒だけで、玉の逃げ場として▲59 同玉ができない合い効かずの形のはずです。

8 段目の飛が王手を掛けても 2 枚の金での合い駒が可能なので、最終的に王手を掛けているのは角が有力。角での王手なら、角の利きを防いでいる地点から 59 へ移動できるのは香か飛ですが、どちらにしても後手はその駒を取る必要があります。手数が掛からない飛が濃厚。駒成なしなので最後に王手を掛けることになる角は元々の角筋に居ることになります。

諸々のことを考慮すると、後手角は 55 から飛

を取って 46 へ戻る。取った飛は 57 へ打って角の利きを防いでおいてから最終手で△59 飛不成の空き王手にします。その飛に▲同玉と取れる 68 地点に玉が居ては駄目なので玉は 79 地点のはず。王手している 46 の角を▲46 歩で取られては詰まないで初期配置 47 の歩が居座っているのは困る。46 の角で 79 の玉に王手を掛けているのなら▲68 金の合いが可能かと思ったら最終手の飛が 59 に居て 69 の金をピンしているので合い利かずになりす。

先後それぞれに必要な手を書き出してみると、後手は△34 歩、△55 角、△28 角不成、△46 角不成、△57 飛、△59 飛不成なら丁度 6 手になる。先手は、55 の後手角が直接 28 の飛を取れるようにする協力手の▲36 歩、47 の歩を移動する▲46 歩、飛の打ち場所を作る▲56 歩、玉が 79 へ移動する▲68 玉と▲79 玉、79 地点を空けるための▲78 銀の計 6 手なので手数的には先後ともに良さそう。滞りなくこれらの 12 手をつなげることができるかどうか。

初手から、▲68 玉、△34 歩、▲78 銀で「3 手目は、玉の隣」をクリア。4 手目から△55 角、▲36 歩、△28 角不成で飛を取る。7 手目からは▲46 歩、△同角不成で最終手のあとに角を取られるのを防ぎたいところですがこれだと 46 の角が王手になってしまうので、先に▲56 歩、△57 飛としておいてから 9 手目の▲46 歩、△同角不成として、▲79 玉に△59 飛不成で詰みになります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

ミニベロさん(作者)「角を最終手にすれば 1 1 手で作れる順だが、最終手「金と金の間」のほうが面白いとあえて 1 2 手に。これしかない収束なので、1 3 4 - 2 より簡単かもしれない。」

■短手数だけではなく条件の妙も推理将棋の醍醐味。仕掛けを紐解く楽しみがあります。

NAOさん「受駒の利きに最終手の不成を指す謎解き。手順前後を許さない 36 歩～46 歩が巧い。」

■流れからは▲46 歩、△同角不成として角位置

を決めてしまいたいところ。36 歩～46 歩の歩の 3 連発が印象的

ほっとさん「詰みの形が見えずに苦労。2 枚とも先手の金だったとは。」

■手数的には 2 枚とも後手駒は無理だとすぐわかるので、先後 1 枚ずつの金の形をいろいろ考えてしまいます。

RINTARO さん「59 銀不成の筋は物理的に 14 手かかる。そもそも 3 手目玉の隣条件がきつすぎるので、別の詰上図を考えることになる。中段玉の 59 角不成や飛不成を考えていた時に本詰上図に辿り着いた。できればノーヒントで考えてみたかったが、ヒント有でも十分に楽しめる作品でした。」

■△59 銀不成までの手順は、先手に 3 手の余裕がある手順、たとえば、▲68 玉、△34 歩、▲36 歩、△55 角、▲48 銀、△28 角不成、▲37 銀、△同角不成、▲16 歩、△48 銀、▲15 歩、△28 飛、▲14 歩、△59 銀不成 でしょうか。この形で 3 手目条件をクリアすると 16 手になりますね。

飯山修さん「わかりません。とりあえず 2 問出来たので送ります」

■解答ありがとうございます。

はなさかしろうさん「59 に角は 3 手目条件と合わないの、仮に飛車だとして…と動かしてみたら、詰んでいました。素晴らしい詰み形で、ヒントなしでは絶対に解けませんでした。」

■解答のあつまりが悪かったので、ヒントでは 59 地点を明かしました。

小山邦明さん「最終手での詰ませ方は、「両王手」か「合駒きかず」のどちらかだと考えて両王手の方は詰方の駒が多く必要そうなので、合駒きかずを考えたらずぐに解けました。」

■非常に効率の良い推理だったようです。

諏訪冬葉さん「上級は時間がなくて諦めました。」

■今回は 2020 年最後ということで少し難しく

するつもりが難しくし過ぎました。

正解：6 名

ミニベロさん N A O さん ほっとさん
RINTARO さん はなさかしろうさん 小山邦明さん

総評

ミニベロさん「どうやら新年を迎えられそうな推理将棋。

でも、作者の数が少ないのが気になり。解答者の中に、作れる人が相当数いるとふんでいるのだが・・・。」

■他の作者さんの作品在庫が少しあります。16 手以上特集なら出題できるのですが・・・。

N A O さん「解答順 3 番以内に入ればと毎回 3 日以内の解答を目指していますが、1 週間でもうやく解答します。

年末の力試し問題なのか上級問題を 3 問揃えた印象。狙い直球の上級 3 は解きやすかったが、初級 1 と中級 2 は裏手順を探るようで大苦戦でした。」

■少しだけ難しくするつもりが……。匙加減が難しいです。

RINTARO さん「3 は閃けば簡単ですが、条件が上手すぎて、まず閃かないです。」

■金 2 枚とも先手の駒でしかも不動とは意外でした。

飯山修さん「今回は全く 1 番から解らなかったので早々とヒント待ちを決め込んだのですが正解でした。ヒントを見ても難しい。」

■解答のあつまりが悪かったのでヒントは甘めにしたつもりでしたがまだ辛くて解答者 1 桁でした。年賀推理では作者からの中間ヒントもあります。(作者からのヒントなので甘くはならないでしょう。逆に惑わすことになるかも)

小山邦明さん「今回の 3 作は、どれも簡単な条件で面白い手順になっていて大変良かったです。」

■楽しんでいただけたようで幸いです。

原岡望さん「詰パラに悪戦苦闘しているうちこちらを忘れてしまいました。今月は絶不調です」

■2020年のことは忘れて、年賀推理をお楽しみください。

担当から：

2020年の推理将棋はいかがでしたでしょうか？元日出題予定の年賀推理の解答を送られる際、2020年の記憶に残る作品とか私が選ぶベスト〇などを記載していただくと幸いです。

2020年を振り返ると、担当になって2年目に入る辺りからようやく余詰作を出題しないようになれたのを嬉しく思っています。解答者数は担当が代わってから減少傾向です。解説が長くて読む気がしなくて離れて行くのか、難度設定が悪いのか...

年賀推理出題と同様に、通常出題でも出題後2週間での作者ヒント投入を定常化してみようかな。解図意欲が湧くことが期待できそう。

2020年に投稿や解答をいただいた皆さんに感謝いたします。それでは皆さん、良いお年をお迎えください。

推理将棋第134回出題全解答者： 9名

ミニベロさん NAOさん ほっとさん
RINTAROさん 飯山修さん はなさかしろう
さん 小山邦明さん 諏訪冬葉さん 原岡望
さん

ちょっと早い 2021 年年賀詰作品展、解答者は私を除いて3名と少な目でした。全題正解者は橋本孝治さんでした。変寝夢さんは感想のみ頂きました。感謝です。

〔解答成績〕(敬称略)

○:正解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	計
橋本孝治	○	○	○	○	○	○	6
占魚亭	○	○	-	-	○	○	4
変寝夢	-	-	-	-	-	-	0
たくぼん	-	-	○	-	-	-	1

1 番 神無太郎作
協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
■				王				玉	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 n飛

※■: Imitator

※後手持駒はすべて中立駒

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【Imitator】(■)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【中立駒】(「 」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

【作者コメント】

令和三年に免じて？三段目から下は使わない手順になっています。

【お年玉ヒント】

詰上りは年賀詰らしい形で1段目しか駒がありません。

71n 飛 42 玉[I82] 51n 飛成{I62} 32 玉[I52]
41n 龍[I42] 21 玉[I31] 迄 6手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					龍	■	王	王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

☆幕開けは毎年恒例の太郎さんです。(投稿がいつも一番乗り)今回は Imitator と中立駒の作品でしたが、ちょっとした問題が……。私は気付かなかったのですが、橋本さんの解答から持駒の飛車は中立駒でなくてもよかったです。作者からすれば紛れがあるということでしょうか？(出題図ですと解析局面数約 40 万、中立駒をはずすと約 5 万) Imitator+中立駒ですと解答者が尻込みすることや、年賀詰を考えればはずした方が良かったかもしれません。作品は詰上り横一線で年賀詰として幕開けに最高1作でした。詰上り、隣り合った玉ですが先手玉は動けず、後手玉は■と共に動けるとするのが面白いと思います。詰上り 31 に■を持ってくるには初手 71 に打たなければいけないのです。

橋本孝治

王手放置に見える 3・5 手目は面白いのですが、中立駒でなくても同じ手順が実現できますよね？何だかモヤモヤが残ります。ルール説明が「協力自玉スタイルメイト」と

なっていました、 図面通り「協力自玉詰」として解きました。

☆しばらく気付きませんでした。ご指摘感謝します。

変寝夢

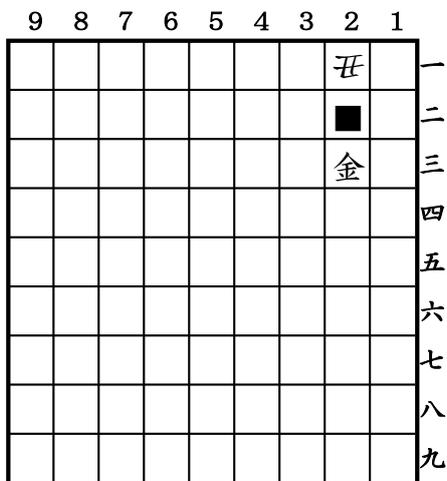
炙り出しでしたか。玉と玉での影挟みはありそうでなかったような。

占魚亭

初手が決まれば後はスラスラ。

2番 占魚亭作

成禁協力詰 5手



持駒 金

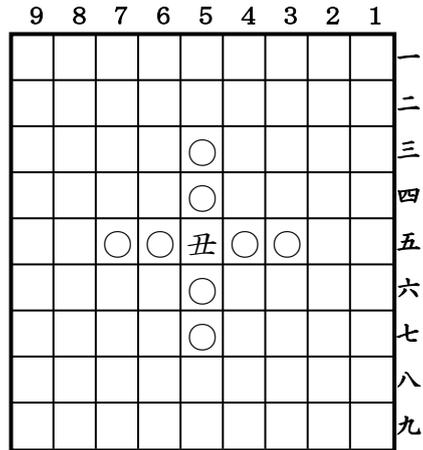
【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【Imitator】(■)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【猛牛(丑)】大將棋の駒。縦横に2マス動けるが、飛び越えては行けない。成ると金将になり、縦横と斜め前に1マス動ける。



【作者コメント】

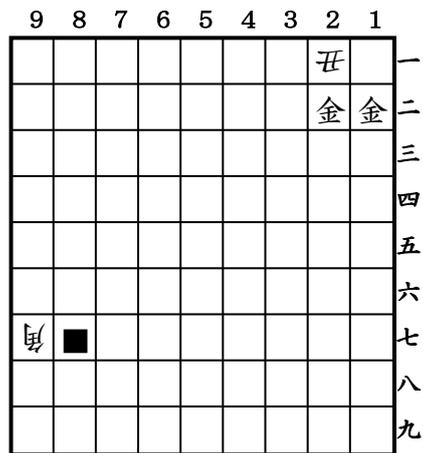
21年丑年ということで、21地点の猛牛(丑)を詰ます Imitator 併用作をどうぞ。猛牛は不動。作者としては「易作」と思っていますが、さて……？

【お年玉ヒント】

丑という特殊な駒に戸惑うかもしれませんが、飛として考えても大丈夫。なぜ成禁が付いているのかを考えればいいでしょう。

12 金打 31 角 33 金 [I32] 97 角 [I98]
22 金上 [I87] 迄 5手

詰上図



持駒 なし

作者

成禁を外せばよかったんですけどねえ…
…もう1つ猛牛使用作があるので、そちらは WFP 作品展に投稿しようと思っています。

☆こちらは初形「1」の曲詰。丑年に因んで「丑」玉を詰まして頂きます。ヒントにも書きましたが、丑は飛でも作意は変わりません。詰上りを見てもらえれば31にもいけませんので一緒です。成禁条件が付いているのは31角が97地点に移動するので成生非限定が発生するためです。左に1路寄せたら・・・と思いましたが、他の順の余詰が発生するのでダメですね。作者の苦悩も良くわかりました。何気ない初形から角打ちからの最速移動はインパクト大。

橋本孝治

成禁指定から大駒の大移動にヤマを張って解きました。「丑」が「飛」でも同じということにはモヤモヤが残ります。

☆もやもやさせない為にヒントに匂わせましたがダメでしたね(笑)

変寝夢

初手は11金か31金しかない勘違いしてしまいました。イメージした流れは一致していたので残念です。

☆初手11金は2手目32駒打となりそれを取るしかないのですが、それは5手では詰みませんね。

3番 神無七郎作

強欲協力詰 63手

受方持駒 なし

										9	8	7	6	5	4	3	2	1
										一								
										二								
										三								
										四								
										五								
				歩	角	王	歩	歩		六								
										七								
										八								
										九								

持駒 歩11

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【強欲】

駒を取る手を優先する。

47歩 36玉 37歩 同玉 38歩 同玉
 46歩 27玉 45角 37玉 38歩 46玉
 47歩 同玉 48歩 同玉 49歩 同玉
 67角 38玉 56角 37玉 38歩 28玉
 29歩 同玉 37歩 18玉 45角 17玉
 18歩 16玉 34角 27玉 16角 37玉
 38歩 47玉 25角 38玉 16角 47玉
 25角 56玉 34角 65玉 43角成 75玉
 42馬 53歩 同馬 85玉 86歩 74玉
 52馬 84玉 85馬 93玉 75馬 94玉
 76馬 95玉 85馬 迄 63手

詰上図

										9	8	7	6	5	4	3	2	1
										一								
										二								
										三								
										四								
										五								
										六								
										七								
										八								
										九								

持駒 なし

作者コメント

この作品は「Onsite Fairy Mate」第148回出題作

(<http://k7ro.sakura.ne.jp/solve/solution29.html#148>)を

年賀詰用にアレンジしたものです。少し手抜きですね。収束は外に追い出す手順になりましたが、何も駒を置かずに収束できたので、これはこれで納得しています。

☆その作品がこちら



強欲協力詰 79手

		玉								
			歩	歩						
			歩							
王										
			歩							

攻方持駒 角歩14

受方持駒 なし

99歩 同玉 55角 98玉 99歩 87玉
 88歩 78玉 79歩 同玉 46角 88玉
 55角 79玉 46角 78玉 79歩 77玉
 55角 68玉 46角 59玉 37角 68玉
 46角 77玉 78歩 同玉 79歩 88玉
 55角 79玉 46角 88玉 55角 87玉
 88歩 76玉 77歩 86玉 87歩 同玉
 88歩 同玉 76歩 66歩 同角 97玉
 75角 87玉 88歩 76玉 77歩 同玉
 78歩 88玉 97角 78玉 79歩 68玉
 86角 79玉 97角 68玉 86角 57玉
 75角 56玉 57歩 55玉 56歩 44玉
 66角 43玉 44歩 52玉 63歩成 61玉
 62と まで 79手

☆今から11年前の作品です。まあ雰囲気は似ている感じですが、全く別の作品ですね。

変寝夢

いやー、よく余詰ないものだ。前半の趣向が面白かった。

☆持駒なしなのでいける順です。

☆今回の投稿時には解が付いていませんでしたので私も解図してみました。まず暗算で考えてみた手順が次の順。

47歩 36玉 45角 47玉 48歩 同玉
 49歩 同玉 27角 58玉 36角 67玉
 45角 76玉 54角 85玉 63角成 84玉
 62馬 83玉 84歩 94玉 95歩 同玉
 83歩成 94玉 84馬 迄 27手 歩6余り

☆おっと簡単に詰み？と思ったけど穴が開いていました。9手目27角には同歩（成）で不詰です。でも角で右上から王手して玉を下げている行けばよさそうです。作意の19手目の盤面を見ると私がさっき錯覚した盤面とよく似ています。

19手目の盤面

					角					
			歩			歩				
					王					

持駒 歩4

☆違いは38歩の有無。たとえば38歩の変わりに58歩だったとすると上記の順で詰みます。ということは初形で先手36歩と56角の位置が逆だと23手で詰みます。（おまけですが26歩が26桂だと同様に詰み・・・持駒歩5）私はしばらくこの形にならないかなと考えましたがだめでした。

☆ここから角を右上から追えるように34角～16角と転回していきます。開き王手を絡めての順でここら辺りが解図の山場だと思います。手を繋げる順はたぶんこの順しかないと思うので根気強くやれば辿り着くのではないかと思います。43手目25角からは左上に追って収束となりますが、42馬以下結構紛れがありますが最短解を見つければ解后感拔群です。見事な唯一解の順で普通はなかなかこんな風に決まりません。OFM148回出題の作品に比べて洗練された内容になっていると思います。

☆正解者は私だけでしたが、じっくり取り組めば解ける作品だと思います。

4番 たくぼん作

強欲協力詰 34手 (受先)

			歩	歩	歩	桂				
			ス		桂					
		歩	歩	馬	金	桂	歩			
			飛		香					
		金	王	香	龍	銀	馬			

持駒 なし

【作者コメント】

お約束の1幕物です。ほぼ絶連だと思いません。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【強欲】

駒を取る手を優先する。

【お年玉ヒント】

まあ手なりに進めれば解けます。

87玉 86飛 同玉 66龍 85玉 75龍 同玉
65金 同と 64銀 同玉 65香 73玉
63香成 同玉 53桂成 同玉 52桂成 同玉
43香成 同玉 55桂 44玉 45歩 55玉
56歩 45玉 46歩 35玉 36歩 同金
同銀 46玉 47金 まで 34手

詰上図

					歩	王	銀			
						金				

持駒 なし

☆あと一手の逆算が出来ずに受け先に妥協してしまいました。考え所はないかと思っていましたが22手目の場面にあったようです。

22手目

						王				
							歩			
						銀	馬			

持駒 桂歩4

☆この図から何となく桂は36辺りに打ちたくなるので44歩から読んでしまうようです。44歩からだ詰むのは詰みますが46手かかりません。正解は55桂と桂を手放す手が正解です。桂を取らせ駒とする順が最短でした。

橋本孝治

22手目55桂以下の収束で少考。空中の詰上り型は限られているので、逆算で解きました。この一型の詰上りは、ただの協力詰だと長手数の逆算は困難なので、強欲ルールの有難味を感じますね。

☆強欲協力詰でのこの詰上りは意外と使いやすく重宝します。

占魚亭

流麗な流れで気持ちのいい解後感。

変寝夢

22手目で歩を打つ順ばかり考え終了。ここだけは手なりにいけなかった。



5番 変寝夢作

協力詰 29手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
								キ	八
									九

持駒 歩3

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【牛王】 フェアリー駒 Gn (Gnu)。利きはナイト+キャメル (12Leaper+13Leaper)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
			○		○				二
			○		○				三
	○	○					○	○	四
				キ					五
	○	○					○	○	六
			○		○				七
			○		○				八
									九

【作者コメント】

牛ということでヌーにしました (牛の仲間ですよね・・・汗)。あと、ヌーの王様で、キング・ヌー詰です。

【お年玉ヒント】

広そうに見えますが4～9筋は使いません。趣向的な手順をお楽しみ下さい。

19歩 25牛 26歩 17牛 18歩 24牛
 25歩 16牛 17歩 23牛 24歩 15牛
 16歩 22牛 23歩成 14牛 15歩 21牛
 32と 13牛 14歩 34牛 33と 12牛
 13歩成 24牛 25歩 11牛 22と右
 まで 29手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								キ	一
						と	と		二
									三
									四
							歩		五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

橋本孝治

最初は騎と同じ6手一組の回転型の移動を試したのですが、全然手数が足りません。4手一組の往復型の移動が可能だと分かってスッキリ解決。微妙に距離の違うジャンプができるのは、とても便利なんですね。

☆変寝夢さんの牛王は12Leaper+13Leaperで2種類のジャンプを使った趣向でこれははじめて見ました。たとえば牛王が騎王だと歩だけでは何枚持っても詰まないのもこれはこれであるほどという感じです。収束もこういう形だと複数解になりやすいのですが、きれいに着地していてこれは一つの完成品と言っていいでしょう。

6番 真T作

ネコネコ鮮協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
									七
									八
									九

持駒 香2

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【ネコネコ鮮】

敵味方を問わず、駒が縦に繋がっているとき、上から n 番目の駒は下から n 番目の駒の性能になる。

【作者コメント】

令和 3 年の 3 手詰。1 のあぶり出しです。

【お年玉ヒント】

作者コメントがほとんど答えみたいなもんですからねえ（笑）

57 香打 58 歩打 56 香打 迄 3 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				王					五
				香					六
				香					七
				歩					八
									九

持駒 なし

☆ト리는昨年、最悪詰作品で大活躍の真 T さんのネコネコ鮮協力詰。そう言えば「ネコネコ」って何なんでしょうね？命名の由来が知りたいですね。

☆たった 3 手ですが、初手の打ち場所、2 手目の応手と考える所はあります。ネコネコ鮮ルールを考えれば、詰上りは縦一線は既定路線の感がありますので 57 香。2 手目の 58 駒打ちが何かは置いておいて最終手 56 香と打つと 55 玉は 58 の駒の利きになりますので歩に限定できました。でも歩に限定できるのも凄いことで、飛、香だと王手回避できず、その他の駒では最後逃げられるわけです。

橋本孝治

裸玉から詰上り「1」。年賀詰には最適ですね。ただ、この図に同一作がないのは「ネコネコ鮮」の不人気のせい？

☆申し訳ないけどネコネコ鮮は苦手ですね。やはり利きが分かり難いと言うのが大きいですね。まだまだ発掘しがいのあるルールではあります。

変寝夢

2 手目外側とは気づかなかった。このルールにしては詰め上がりがわかりやすい。

☆最終手尻香が上手くいかないのですね。

占魚亭

2 手目がポイントですね。

【総評】

橋本孝治

年末は普通詰将棋の年賀詰創作に時間を取られて、解答に手が回りませんでした。お気に入り入りは 5 番（変寝夢氏作）です。

変寝夢

解図は無理でしたが、全局鑑賞させて頂きました。WFPらしいラインナップだと思いました。

占魚亭

ギリギリになって手をつけたので、解けたものだけです。

☆投稿、解答ありがとうございました。また来年よろしくお祈いします。来年は「寅」です。

(46) Gianni Donati
(Probleemblad 01/2000)



Proof Game in 14.5 moves (14+15)

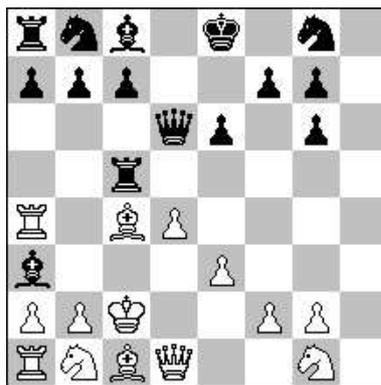
なくなった駒は白が QS の 2 枚で、黒は P1 枚のみ。また、盤面配置を作るのにかかる手数は白が 6 手、黒が 7 手です。黒 P は明らかに成っていますから、黒 Qd8 を h3 に捨てておいて成 Q を戻す Pronkin がすぐに思い浮かびますが、これは手数オーバー。

黒 P は成るだけで 5 手かかりますから、黒の猶予はあと 2 手しかありません。従って、この黒 P は 2 枚駒取りをして c1 で Q に成り、e3-h3 と動いたことが手数計算のみで分かりました。

さて、問題はここからです。黒 P は Q と S を取って c2 に来るのですが、このままだと c1=Q がチェックになってしまいます。「白 K を一旦外に逃がしたらいいんじゃない？」と思うかもしれませんが、実際にやってみると手数が足りないことが分かります。よって、白はチェックを避ける為に d1 に遮蔽駒を入れる必要があるのですが、さてそれは何でしょう？実はそれは、a1 にいる白 R なのです！そして、そのことに気付くと同時に、作者の構想も見えてきます。作意は 1.Sf3 e5 2.Sd4 xd4 3.c3 d3 4.Qc2 xc2 5.d3 Se7 6.Bh6 g5 7.Sa3 Sg6 8.Rd1 c1=Q 9.Rg1 Qe3 10.Ra1 Qh3 11.xh3 Be7 12.Rg4 Rf8 13.Rd4 g4 14.Bc1 Bg5 15.Sb1 です。

黒 Q の Ceriani-Frolkin の為の白 RB S の Switchback。特に白 B の最遠移動は気持ちの良い手ですね。

(47) Michel Caillaud
(Problem Paradise 10-12/2002)



Proof Game in 12.5 moves (14+15)

b)Pg6→g5

なくなった駒は白が P2 枚で、黒は P1 枚のみ。又、盤面配置を作るのに白は 7 手、黒は 6 手かかります。駒取りが判明しているのは、黒 Pg6 によるもののみ。では、この P は何を取ったのでしょうか？c 筋の白 P が d8 で成って g6 に行ったとしても最低 7 手かかりますから、これでは手数が足りません。ましてや Pronkin は絶対に不可能です。となると、g6 で取られた白駒は h 筋の白 P しかありません。

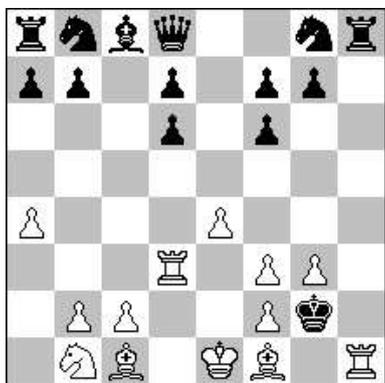
それでは、h 筋の白 P が取った駒は何だったのでしょうか？それは d 筋の黒 P が c1 で成った B なのです！黒が成 B を g5 に持って行くのに 6 手かかり、黒の手はこれだけぴったり。白は Bc1 を h6 に移動させる必要があります、更に成 B が g5 に来る迄は白 Ph4 の状態ですから、R は h1-h3-a3-a4 と 3 手かけて移動しなくてはなりません。すると、盤面配置で 8 手、Bc1 の switchback で 2 手、そして h 筋の P が 3 手動きますから、白の手もこれでちょうどですね。以上より、a)の作意は 1.h4 d5 2.Rh3 d4 3.Ra3 d3 4.Ra4 xc2 5.d4 e6 6.Bh6 Ba3 7.Kd2 c1=B 8.Kc2 Bg5 9.xg5 Qd6 10.g6 hxg6 11.Bc1 Rh5 12.e3 Rc5+ 13.Bc4 となります。

では、b)はどうでしょう？今度は黒が 1 手余計に指していることとなりますから、a)と同じ筋は成立しません。しかし今度は、c 筋の白 P を d8 で成って g5 に捨てる順が成立します。これで白は 13 手ちょうど。対照的に黒には余裕がありそうですが、盤面配置だけで 8 手かかり、更に Q で Ph2 を

取ったり、Kが白Pd7のチェックを避けて switch-back したりすると、やはり 12 手ちょうどになります。よって、b)の作意は 1.c4 e6 2.c5 Qh4 3.c6 Ba3 4.xd7+ Kf8 5.d8=B Qxh2 6.Bg5 Qd6 7.Rh4 h6 8.Ra4 xg5 9.d4 Rh3 10.Kd2 Rc3 11.e3 Rc5 12.Bc4 Ke8 13.Kc2 となります。

白黒双方の B による Ceriani-Frolkin が 2 解で表現されているという、奇跡的な twin。どちらの解も switchback を含んでいるところなど、信じ難い完成度ですね。

(48) 橋本 哲(Problemesis 12/2005)



Proof Game in 16.5 moves (13+14)

なくなった駒は白が QSP の 3 枚で、黒は BP の 2 枚。また、盤面配置を作るには、白が 8 手(Bf1 は最低でも 2 手動いている)、黒も 8 手かかります。

ここでまずは、白 Pf3 がどちらの筋のものだったのかを考えてみましょう。どちらにせよ白 P が f3 で取ったのは黒 B ではないので (Bf8 は黒枳 B)、もし e 筋のものだったのなら白の駒取りは e3 と f3 で起きており、g 筋のものだったとすれば駒取りは f3 と g3 であったことが分かります。また、これより h 筋の黒 P は成っていることも分かります。つまり、白 P が f3 で取ったのは、この成駒なのです。黒 P が成って f3 に移動するには 6 手かかり、更に黒 Bf8 も 2 手動いて取られていますから、これで黒の手数はちょうどですね。

ところが、黒は想定される手順中に h 筋の白 P を取ることはできませんから (各自御確認下さい)、結局 Pf3 は g 筋のものだったことが分かりました。このことから、

黒 P は g1 で白 S を取って S に成ったことも判明します。

では、実際に手を進めてみましょう。序は 1.d4 h5 2.d5 h4 3.Qd4 h3 4.Qf6 exf6 5.a4 Bd6 6.Ra3 Bg3 7.hxg3 h2 8.Rd3 xg1=S 迄ほぼ必然ですね。

(8.0 手目の局面)



この後黒 K は e8-e7-e6-f5-g4-h3-g2 と進みますが、g4 に来たところで Sf3+とし、Pxf3+ Kh3 としたい訳です。しかし、その為には白 Rh1 の h3 への利きを遮断する必要があります。白に与えられた猶予は 4 手。さてどうしますか？

この局面で、9.Rh7! Ke7 10.d6+ Ke6 11.Bh6!と白 R を h7 に一時的に格納するのが妙手です！こうしておけば、予定通り Sf3+以下の手順に入ることができます。

(10.5 手目の局面)



以下の手順は 11...Kf5 12.e4+ Kg4 13.Be2+ Sf3+ 14.xf3+ Kh3 15.Bc1+ Kg2 16.Rh1 xd6 17.Bf1+となりますね。

ということで、「如何にして黒 K に h3 を通過させるか？」という謎に対して作者が用意した解答は「白 RB の double Switchback」でした。

(49) MichelCaillaud
(Problemesis 8 04/1999, 1st Prize)



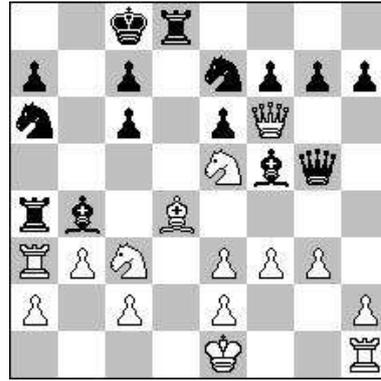
Proof Game in 17.0 moves (13+13)

なくなった駒は、白黒双方とも P3 枚ずつ。黒 Ph4 は少なくとも 2 枚駒取りをしていますが、直進途中の白 P を取ることはできませんので、2 枚の白 P が成っていることが分かります。盤面配置を作るのに白は 5 手かかりますから、残りは 12 手。ということで、Pronkin には手数が足りません。よって、2 枚の白 P はいずれも d8 で B に成り、それを g5 と h4 に移動したということが、手数計算のみで判明しました！

最初の白 P は、成った後に 1 手で移動する為に黒 Pe7 も取った筈です。従って、d 筋の白 P が Pe7 と Qd8 を取って B に成り、h4 に移動することになります。2 枚目の白 P は 1 枚しか駒取りができませんから、これは c 筋のものと決まります。そして c 筋の黒 P は筋を変えなければならず、更に d8 に何か駒を補充しないと白 P が d8 で成ることができませんね。よって、c 筋の黒 P は白 Pb2 を取って b1 で Q に成り、d8 に移動したことも分かりました。後は、再度 b 筋の黒 P が Q に成って d8 へ戻ればよい訳です。作意は 1.d4 c5 2.d5 c4 3.d6 c3 4.xe7 xb2 5.Sc3 b1=Q 6.xd8=B Qb6 7.Bh4 Qd8 8.Sa4 b5 9.c4 b4 10.c5 b3 11.c6 b2 12.c7 b1=Q 13.xd8=B Qb6 14.Bg5 f6 15.g4 xg5 16.Bh3 xh4 17.g5 Qd8 となります。

詰将棋の趣向作のような美しい反復手順を、全く無理なくしかも平易に表現しているところに、Caillaud の卓越した創作力を感じますね。

(50) 屋並仁史
(Problem Paradise 8, 1998)



Proof Game in 20.0 moves (15+15)

なくなった駒は白が B1 枚で、黒は P1 枚。どちらも駒取りのあった場所は確定しています。意外にも、白の盤面配置を作るのには h1 にいた R を a3 に持っていく方が手数が少なくて済み、これで 18 手。Bf1 を c6 に捨てるのにも 2 手かかりますから、白の手はこれでちょうどです。特に、Q が d1-d4-f6 と動いたことも分かりました。

一方、黒側の盤面配置を作るのには（黒は 0-0-0 の後で R が d8-d4-a4 と動いたとして）11 手かかります。先に e3 に捨駒をしないと d 筋の P が成れないので、盤面にある駒のうちどれかは成駒であることも分かりますね。成るのに 5 手、そこから移動するのと、先に e3 へ捨駒をする手とを考慮すると、実際には黒にも殆ど余裕はありません。

では、序を考えてみましょう。白が B を c6 に捨てるのには 3 手かかりますが、白 Q の軌跡を考えると黒は 2 手目迄に d 筋の P を突く訳にはいきません。すると、黒の待ち手は Sa6-Rb8 しかなく、実は黒が castling していないことが判明しました。

すると、自然にこの黒 R を e3 に捨てる順が見えてきます。つまり、盤面にある 2 枚の黒 R のうちどちらかが成駒なのです。手数計算を試みれば、それが a4 の方であることもすぐに分かります。黒側もこれで 20 手ちょうど。あとは実際に駒を動かしてみれば、容易に作意に到達できる筈です。

作意は 1.g3 Sa6 2.Bg2 Rb8 3.Bc6 bxc6 4.Sf3 Rb3 5.0-0 Re3 6.dxe3 d5 7.Qd4 Bf5 8.Rd1 e6 9.Rd3 Qg5 10.Qf6 d4

11.Ra3 d3 12.Se5 d2 13.f3 d1=R+
14.Kf2 Rd4 15.b3 Ra4 16.Bb2 Bb4
17.Bd4 Se7 18.Sc3 Kd8 19.Rh1 Kc8
20.Ke1 Rd8 となります。

白は castling していないようである、
黒は逆に castling しているようではない
(**anti-castling & pseudo-**
castling)というパラドキシカルなテーマ
を、見事に実現していますね。



高坂研さんによるレトロプロブレム入門
は今月号で完結です。1年1ヶ月にわたり
ありがとうございました。

WFPでは、連載モノ、単発モノ含めて広
く原稿を募集しております。ほぼ縛りはあ
りませんのでお気軽にお問い合わせくださ
い。ネット上で発表したものでも、急に見
れなくなる事があるかもしれません。WFP
上で記録として残しておくという意味でも
有益かと思えます。(たくぼん)

恒例?、「第53回神無一族の氾濫」(お題は何かの点で「7」にちなんだ作品)落選作です。

<ルール説明>

【協力詰】
 先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【自玉詰】
 攻方は自玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

【二玉詰】
 複数の玉を使用する。どの玉に対しても王手放置は禁手。王手を外せなければ詰み。

【点鏡】
 55に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

[補足]
 行き所のない駒の禁則は適用されない。

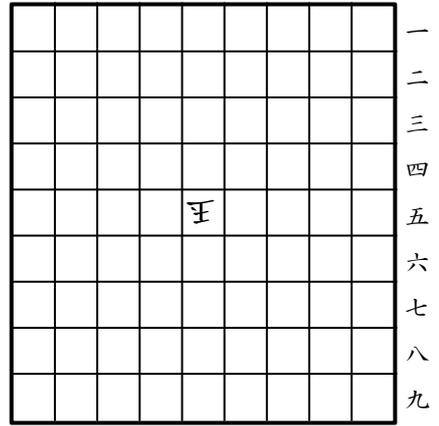
【Grasshopper】(G)
 フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。

【中立駒】(n駒)
 どちらの手番でも動かせる駒。

<問題>

【r3-1】

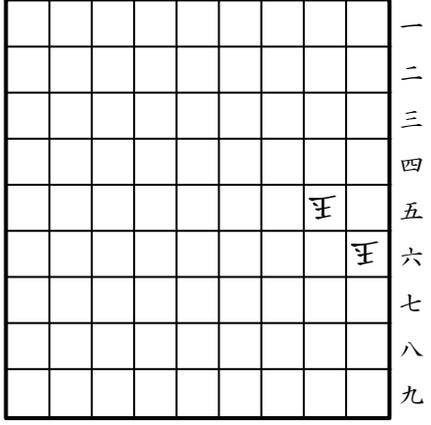
点鏡協力詰 7手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 金騎

【r3-2】

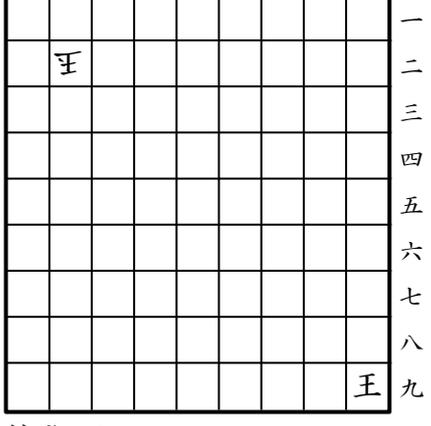
二玉協力詰 7手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 nG2

【r3-3】

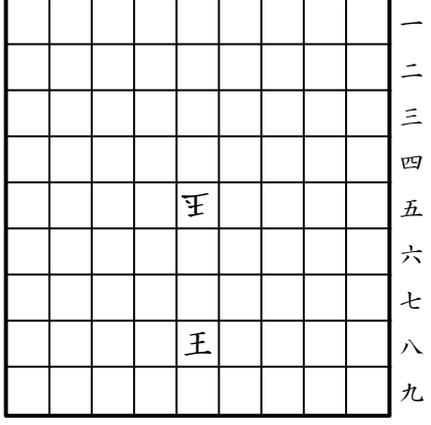
協力自玉詰 7手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 G

【r3-4】

協力自玉詰 7手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 nG

<余談>

昨年末から数学セミナーの「エレガントな解答をもとむ」コーナーの問題を解いています。解答は仲間内には披露していますが、出題意図がよくわからない問題が多いので、なかなか応募する気にはなりません。

例えば今月の出題1はこんな問題です。

$5^2=25$ は、 $5^3=125$ の下 2 桁に一致します。また、 125 は、 $5^5=3125$ の下 3 桁に一致します。実は 5^m は必ずそれより大きい 5^M のある下 k 桁と一致します。

そこで、自然数 n が性質「任意の自然数 m に対して、 n^m の 10 進表記での桁数を k とするとき、ある自然数 $M>m$ について、 n^M の下 k 桁が n^m と一致する」を満たすか満たさないかを、 $n=1,2,3,\dots$ それぞれについて決定し、理由も添えて答えてください。たとえば 5 はこの性質を満たしますが 10 はこの性質を満たしません。決定できなかつた最小の n が大きいほど、より良い解答と見なします。

(つづく)

<ルール説明>

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【白玉詰】

攻方は白玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

【スタイルメイト】

王手は掛かっているが合法手のない状態にする。

【点鏡】

55 に関して点対称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

[補足]

行き所のない駒の禁則は適用されない。

【Knight】(騎)

チェスの駒。八方桂。

<問題>

【9-1】

点鏡協力詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
								王	六
									七
									八
									九

持駒 歩騎

※後手持駒に騎 3 枚あり

17歩 93騎 37騎 17玉 29騎 81香 25騎 29玉 17騎 まで 9手

占魚亭

玉を行き所のない駒に変身させるための各種手続き。

【9-2】

点鏡協力白玉スタイルメイト 6

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
									四
								王	五
									六
									七
									八
									九

持駒 騎

※後手持駒に騎 3 枚あり

23騎 87飛 27騎 83飛成
 23騎 同龍 まで 6手

占魚亭

見えやすい最終局面。

【9-3】

点鏡協力白玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

					王				一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
			王						八
									九

持駒 騎

※後手持駒に騎 3 枚あり

49 騎 61 香 47 騎 58 玉 39 騎 71 飛
69 騎 同香生 まで 8 手

占魚亭

気持ちいい最速移動の空き王手。

【9-4】

点鏡協力白玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
				王					三
									四
									五
									六
									七
				王					八
									九

持駒 香騎

※後手持駒に騎 3 枚あり

59 香 47 玉 57 香 36 玉 15 騎 95 飛
55 騎 同飛 まで 8 手

占魚亭

聖域 (55 地点) 利用。

占魚亭

※点鏡+フェアリー駒は自分も掘っているのに、そのうち衝突することがありそうですね……。

※危なそうですね。

<余談 (つづき) >

『決定できなかった最小の n が大きいほど、より良い解答と見なします』

これはフェアリー詰将棋で言うところの最短手数探しの問題と同様だと思うのですが、どうでしょうか。出題者が正解を確信できていないパターンですよ。

ただこの問題の場合、プログラミングして実験してみるとすぐに分かるのですが、 n が「性質」を持つ条件は割りと簡単に予想できてしまいます。しかもその予想は割りと簡単に証明できてしまいます。なにゆえ最短手数探しパターンでの出題形式が選択されたのかよくわかりません。

とりあえず、 n が「性質」を持つ／持たない条件を表にしてみました。正直なところ、意外な結果でした。「性質」を持つ n はもともとずっと少ないと思っていましたので。

	$b=0$	$1 \leq b < j$	$j \leq b$
$a=0$	○	×	○
$1 \leq a < j$	×	×	×
$j \leq a$	○	×	×

○ : 「性質」を持つ

× : 「性質」を持たない

j : n の 10 進表現での桁数

a : n に含まれる素因数 2 の個数

b : n に含まれる素因数 5 の個数

証明を書くには本当にちょっとだけ余白が足りません。

変寝夢

協力詰 11手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				玉					六
									七
									八
									九

持駒 銀桂

※玉はGnu (ヌー)
Gnuの動きは八方に桂馬(2,1)
または大桂馬(3,1)

49 桂 45 玉 37 桂 33 玉 25 桂 12 玉
13 桂成 24 玉 33 銀 11 玉 22 成桂
迄 11手

作者

打った桂の連続3段跳が狙い。詰め上がりが
多分これしかないので、逆算で解く方が早い
かも。

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2020年1月31日(金)

上谷直希 例題級の作品の出題

フェアリー作品 3題

2020年2月10日(水)

推理将棋第135回出題

推理将棋 8題

2021年2月15日(月)

第127回WFP作品展

フェアリー作品 12題

第12回アンチキルケばか詰作品展

フェアリー作品 14題

Fairy of the Forest #65

フェアリー作品 3題

臨時③神無太郎の氾濫

フェアリー作品 4題

2021年3月15日(月)

第128回WFP作品展

フェアリー作品 10題

作品募集一覧

第54回神無一族の氾濫

課題：将棋の格言にちなんだ作品

投稿締切：2021年4月18日(日)

投稿先：神無七郎 (k7ro.ts@gmail.com)

(詳細はP15をご覧ください)

【あとがき】

たくぼんの解図日記にて発表しました年賀詰の解答を載せておきます。

強欲協力白玉詰 22手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
		王							四
									五
	金	銀	ス		角				六
			角		歩				七
			歩		歩		銀		八
		銀				玉			九

持駒 なし

85 金 同玉 76 角 同玉 67 銀 同玉
68 銀 56 玉 67 銀 46 玉 47 歩 同玉
56 銀 同と 48 歩 46 玉 47 歩 同と
37 銀 同玉 38 歩 同と まで 22手

橋本さんから解答と短評を頂きました。ありがとうございます。

橋本孝治

「うし」から「1」へ、ミニ煙のおまけ付き。いつもながら見事な手際です。画像を見るとルールが「強欲協力詰」になっていたのが戸惑ったのですが、「強欲協力白玉詰」で合っていますよね？

★新年早々やらかしてますね(笑)

たくぼん

2021年 第151号

Web Fairy Paradise

非売品

令和三年一月号

令和三年一月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp